拝啓　山城高校様

山城10回　鶴　岡　由　雄

拝啓　山城高校様

昭和三十年四月にあなたの門をくぐってからもう五十年が過ぎました。長い時間がながれたのですねぇ。この間に私も就職もし結婚もして子供も三人も恵まれ、それぞれが大事な出来事として脳みそに深い皺をつくっています。しかし人生を振り返るとき、高校の三年間が特別の色合いで充実していたように思えてなりません。

山城高校様、あなたの悪口を言うわけではないのですが、百人上がったら危ない旧本館の図書館、日差しと雨漏りの豊かな「鶏小屋校舎」、後ろから出入り自由な階段教室、冬季は朝十時には燃料が切れる石炭ストーブとか、あまり教育環境も威張れたものではなかったですよね。それと私、当時生活も楽ではなかったのでいつもひもじかったし、一時は定時制への転向を考えるような事情もあったり、好きだった女の子には振られるし、散々だったし、また私は体育会系ではなかったので汗と涙の部

活の経験も無く、学業成績の方も追試験で立派に各学年をクリアーするタイプだったのにもかかわらず、何故か高校の三年間が他にもまして充実していたように思い出せるのです。たぶん他の人も同じような思いでいるのではないでしょうか。

何故なのでしょうね？ いろいろ理由を考えたのですが、結局山城高校様、昔のあなたは「なんとなくワイルド」であったし、「なんとなくフリー」であって、教職員の方々も生徒達も自然とその色に染められてしまって心地よかったのではないでしょうか。それは一つ一つの行事やハプニングがほどよく色付けをされ、みんなの胸の奥に染み込んでいったのではないでしょうか。あの頃は物質的には決して豊かな時代ではなかったのですが、野球部の甲子園選抜出場で全校が熱くなったし、バスケット部のインターハイでの抜群の成績や、ボート部は朝日レガッタで優勝も果たしたし、サッカー部は後年の輝かしい成果への礎を築いたし、硬式テニス女子では府内優勝者の出現など、運動部の画期的な数々の成果は、時には勝っていたラグビー部も含め、それぞれの選手のみならず同窓生全員の忘れ得ぬ誇りとなりました。夏にはまだ遠い時期なら服を着たままプールへ飛び込む水泳部の面々の健気さには呆気に取られたし、その他の珍騒動の数々や、いつも好きな女生徒の直前で音楽が終わる雨天体育場でのフォークダンスや、文化祭・体育祭・学生食堂で

のあれこれのシーンなども目を閉じれば昨日のことのように甦ってきます。さらに先生方のまだ若い姿も浮かんできます。常に年齢にもかかわらず溌剌と若い声とパフォーマンスで体育指導をされていた布川トスカン先生、ちょっと睨みは効くが風貌で笑らけた白川アチャコ先生、教師就任後初めての担任でハッスルし、いまだに兄貴分のような井上（隆）先生、厳格な顔が怖そうで授業はチンプンカンプン、漢文の須羽源先生、生徒指導の横山ロンパリ先生がクラブボックス周辺へ来るとなぜか無音の警戒警報が漂いました。紙数が許せば記憶をたどりみんなみんな有ること無いこと（ウソは×ですね）書いてみたい気持ちになります。そんな気持ちを今でも月一度のミニ同窓会（山酔会）で話しに花を咲かせています。

山城高校様、あなたは私達にとって永遠なんです。たとえその姿を大変貌されても、私達にとっては「古巣」なのです。あなたの元を巣立った四百五十羽の雛鳥達が、その後の実社会で素晴らしい人材になったし、今もなお活躍している人もいるということを誇らしく思います。いま青少年の教育についていろいろな議論があります。浅知恵の私にはよくわかりませんが、結局人間は振り返って「ゆかしく思える財産」をどれだけ残せるかが良く生きた証のように思えます。今後もそのための教育環境を提供してあげて欲しいなあと思います。